

令和４年度 第１回丹波市地域福祉計画推進協議会 会議録

日 時	令和４年９月30日（金）午後２時
場 所	丹波市役所本庁第２庁舎 ２階ホール
出席者	谷口委員、松尾委員、須藤委員（代理）、熊野委員、開田委員、田口委員、澤村委員、衣笠委員、寺内委員、足立委員、辻本委員、小松委員、大野委員、田中委員、八尾委員、余田委員、大西委員、細見委員 計18名
内 容	１ 開会 ２ 委嘱書交付 ３ あいさつ ４ 報告事項 （１）これまでの協議結果について ５ 協議事項 （１）会長及び副会長の選任について （２）計画の進捗状況について （３）意見交換 ６ その他 （１）次回の日程 ７ 閉会

１ 開会（事務局）

２ 委嘱書交付

３ あいさつ

４ 報告事項

（１）これまでの協議結果について

[事務局説明]

[委員①]

この計画を作るために前回関わらせていただきました。この計画がだいたい出来あがった頃に、この場であったかどうか定かではありませんが、住民に対してしっかり説明をしていかないと、計画が絵にかいた餅になってしまう。そのためにも住民向けの説明会もしていかないといけないという話があったかと思います。コロナ

禍でなかなか会議ができなかったとは思いますが、今後そのような対応をされるのか、お聞かせください。

[事務局]

この計画を進めるにあたって、互助を１番に考えるという計画にしているところがあります。

互助ということは、地域で住んでいらっしゃる皆さんに、まずは他人事でなく、やはり自分のことということ認識いただくことから始めなければならないという意見もございましたので、地元への説明は、重点的に考えなければならないということを、会議の中でお話させていただいていたところでございます。

委員①が言われましたとおり、25自治協議会あるわけですが、実際にはちょうどコロナ禍であったため、この期間はなかなかその機会がなく、実績としても前回もお話ししましたように、25分の１自治協議会でしかこのご説明ができていないという状況でございます。これにつきましては、当然ながら、住民の意識というものを醸成するのが、やはり１番重要であると考えておりますので、引き続き地域に出向いて周知していきたいと考えているところでございます。

5 協議事項

(１) 会長及び副会長の選任について

会長 田中 義人 氏

副会長 谷口 泰司 氏

(２) 計画の進捗状況について

[事務局説明]

[事務局]

先ほど各担当者からご説明させていただいた内容については、大変細かい内容になっており、文字も小さくなっておりますこと、ご了承ください。

実際にはこのように令和３年度から進捗管理をし、それぞれ実施してきた取り組み、それに伴う成果、その上でいろんな課題がある、それを次はどのようにしていけばよいのかといったところを整理した内容（表）にさせていただいております。

全てをご報告申しあげること、時間的にも難しいところもあるため、中でも特に今回重点を置くべきところを抜き取って、細かくもう一度その分については、ご説明を申しあげて、そこについて、委員の皆さんから意見を頂戴できたらというふうに考えておりますが、会長よろしいでしょうか。

[会長]

多岐にわたる施策であるため、絞らないとなかなか議論もできないと思います。また、最後のその他のところで、皆さんのご意見を聞かせていただければと考えておりますので、あとはご提案いただいた方法で結構かと思います。どうでしょうか。

[事務局]

ありがとうございます。

[会長]

それでは、ポイントを絞って議論をさせていただきますので、事務局から説明をお願いします。

[事務局]

それでは、一方的な説明ばかりになってしまい申し訳ありません。

本日1回目ということで、なんとかご理解をいただきたく存じます。資料の20ページをご覧ください。

今回、地域福祉計画を進める中でも、特に今、中心的に進めなければならないところ、これがいわゆる地域の中での助け合い、ここをしっかりと充実していこうというお話でございます。

先ほど委員①からもお話があったように、まずは市民への説明、そして意識の醸成というところが大事ではないかということもございました。それがなかなか進めていない現状ではございますが、20ページの地域支えあい推進会議、ここを1つの焦点におきまして、本日はここを細かく説明も申しあげる中で、ご意見を賜りたいと考えております。先ほど会長から了解いただきましたので、まずご報告をさせていただきます。

[事務局]

それでは、地域支えあい推進会議につきまして、ご説明をさせていただきます。

先ほどの計画の始めの部分でも説明がありまして、今後、高齢者の方が増加していく、そして、それを支える年代がだんだん減少していくという中で、行政ができること、それから今までからのサービスができることというのは、やはり限界がございます。

そこで、高齢者を地域の中で支えていこうというのが、市が進めております生活支援体制整備事業というものでございます。この中で自治協議会等を単位としまして、支えあい推進員の方が地域に入らしていただいて支援をしながら協議体の中で地域の課題を話し、そしてその課題の解決方法を協議体の中で考え、そこで解決ができないことについては、関係機関が市に繋いで全体的に解決を図っていこうというものが、支えあい推進会議の役割となります。

計画書の45ページご覧ください。

今お話をさせていただいております支えあい推進会議について組織化したものになります。

先ほど係長（介護保険課）から第1層、第2層という話がありましたが、まずは図でいいますと真ん中の支えあい推進会議（小学校区）というのがございます。ここが第1層の協議体というところで、話し合う場を作っていただいている団体でございます。

先ほど25自治協議会のうち17設置ができましたという報告をしましたが、それが図真ん中の支え合い推進会議（小学校区）の立ち上げのことになり、その中で地域の課題を皆さんで持ち寄っていただいて、話し合いを始めていただきます。

この課題について、例えば、地域の中にあるご近所であるとか、地域の中の企業であるとか、また、自治体、老人会、そういった団体であります地域資源を使って、解決できるものについては、地域の中で解決を図っていただく、そして、その中で解決ができないものについては、図下の丹波支えあい推進会議（市域）と書いておりますが、こちらが先ほど係長（介護保険課）から説明しました第1層と呼ばれるものであり、市単位の地域支えあい推進会議へその課題を持ち上げて、そこでさらに必要なところへ繋いだり、市の中で検討をしたいということで、解決をしていくというものでございます。

この第1層、地域の会議のところを今回委員の方の構成を変えさせていただき、支え合い推進会議の設置ができていないところについては、第1層から支援を行うなどして、さらに数の方を増やしていきたい。

そして、活動自体に迷っておられるところ、低迷しているところについては、その支援を行わせていただきたいということで、第1層を今回令和4年度に、見直しをさせていただいているということでございます。地域支えあい推進会議が中心となるわけですが、この場合に書かせていただいているものについては、いろんな団体からご協力をいただいたりとか、相談をいただいたりとかいうところで、この地域課題についての話し合いを始めていきたいと考えております。

[事務局]

まずは、地域支えあい推進会議というところが皆さん委員の中でも、どういうものなのか分かりにくいというふうに感じましたので、まずはその部分についての説明を事務局（介護保険課長）からいたしました。

資料⑤20ページをご覧ください。

[事務局]

資料⑤について説明

[会長]

ありがとうございました。

それでは、支えあい推進会議に関する事項ということで、どう運用していこうか、また、推進状況についてもどう協議をしていこうかということなのですが、今まで

の説明も多岐にわたっており、この項目の中でも多岐にわたっておりますので、まず、課題問題点あたりを中心に、私の方でまとめてみました。

前年度の計画に続く状況があり、支えあい推進会議の推進に6名の推進員が配置されました。そして、地域支援の協力体制として支援者会議が持たれました。支援者会議は、社会福祉協議会、市民活動課、介護保険課により構成されています。それからモデル事業が行われているということです。そして、地域包括支援ケアシステム推進会議では、地域包括支援センターで把握された地域課題のフィードバックも行われつつあるということなどが現状です。

課題というのが、第1層協議体の役割を追加しましたというところで、新たにどのように進むか、第2層協議体の設置と機能強化に向けて、自治協議会からも状況や意見が聞ければと思いますが、このあたりがこれからの課題かなと考えています。第2層協議体の未設置のところは8地区残っていて、支えあい推進会議ができ、活動し始めたところでは、機能強化として相談とか見守りがあり、自治協議会には相談のつなぎということもお願いしているということです。

焦点は、第1層協議体の役割の追加、第2層協議体の設置と機能強化に向けて、どのようにしていけばいいのだろうか、また、今推進している体制でいけるかどうかということだと思っていますが、皆さんのご意見をいただけたらと思います。

[委員②]

この計画書づくりのところで、気付いておかなければならない私自身の気づきとしておかなければならない点、見落とししていたのかなということですが、最初に説明があった5ページ、重点施策の評価指標というのがありますが、先ほど計画書の中にある文言について整合性のお話がありました。

それからみますと、重点施策の評価指標に1番最初に上がっておりますのが、地域を基盤とした多種多職種、多機関の連携強化というところに、地域特性を生かした介護福祉分野における訪問があります。

これは、地域を基盤とした多職種、多機関の連携強化の中の重点施策ではないんです。別途資料、資料④の7ページをご覧くださいたらわかりますが、重点施策、左の上、地域を基盤とした多職種、多機関の連携強化、そしてその基本的な施策の方向性に(1)ライフステージに対応した技術支援活動の充実強化、ここに重点施策があります。ということで、地域の特性を活かした介護・福祉分野における多職種・他機関の連携と協働には重点施策という文言が記入されていません。この資料④の中にある重点施策の文言と、今日いただいた資料③の中の重点施策というのが必ずしも共通していないということになります。

この重点施策の評価指標をかえて、重点施策ではなくて、いわゆる基本的な施策の方向性に関する一部の評価指標という表現になるのかなと思います。例えば、地域づくりのところでは、支えあい推進会議に係わる事項として、自治協議会による支え合い推進体制の整備と活動の充実、ここには(重点施策)と入っています。重点施策とは一体なんなんだということが、この計画段階で提示しておかなければいけないと思うのですが、非常に私の中ではわからなくなって、重点

施策の評価指標という形で、改めて評価指標をつくっていくのか、今ある重点施策という表現を変えるのか、その辺を急な質問で申し訳ないんですが、ご判断いただいて、ご返事いただけたらと思います。

[会長]

ありがとうございます。
事務局から説明をお願いします。

[事務局]

前年度まで社会福祉課で地域福祉計画を担当しておりました。

委員②ご指摘のとおりです。すみません。

重点施策の評価指標の明記が間違っております。

資料③5ページの「地域特性を生かした介護、福祉分野における多職種、多機関の連携と協働」が間違いで、計画書の42ページをご覧ください。（1）のライフステージに対応した自立支援活動の充実強化がここに入ります。こちらに重点施策と括弧で書いてあるわけですが、この重点施策と書いてあるものの指標がそれぞれこの後もピックアップしてあることになっております。

例えば、その次の資料⑤の2段目、地域づくりのところで、自治協議会による支えあい推進体制の整備と活動の充実であれば、計画書の45ページ…。

[委員②]

話の途中で申し訳ありませんが、この資料③5ページの地域特性を生かした介護福祉分野におけるというのは、（2）なんですね。それを（1）の重点施策をライフステージに対応したものに文言をかえても、その下の指標そのものはどうなのか、その説明がなければ、今の話はなかなかちょっと通じていかない。

[事務局]

複合課題に対する他部署他機関、事例検討案件数となっております。

こちらの方がライフステージに対応した自立支援活動の充実強化というところの①から⑧を達成していくことによって、件数が出てくるところで、実際この数値を表すために、こちらの評価資料を作成しているところです。（2）であれば、ケアマネジャー連絡会、地域ケア連絡会議等となっております。

[委員②]

次回、そのあたりのご説明をいただけたらありがたいと思います。

推進会議の方が重点議題だと思いますので、そちらに話を戻して、そちらのご質問をさせていただきたいと思います。

先程から第1層の説明を縷々聞かしていただいたわけですが、第2層の推進会議についてこの資料を読みながら感じましたのは、第2層の各地区支えあい推進会議の構成員というものの、その提示があるのか、サンプル提示ですね。そのようなも

のはどうなっているのか、いわゆる自治協議会、自治振興会等々が、この推進会議を作っていく団体になろうかと思うのですが、そちらが自主的にその構成を考えて、委員構成を考えて作っていくのか。あるいは、市の支えあい推進会議から、こういう委員構成でやってはどうですかという、サンプル表示、サンプル定義というものがあるのか。

そして、もう1つの質問は、民生委員児童委員が支えあい推進会議のメンバーではないのか、資料⑤20ページの支えあい推進会議の参加ということは、委員参加ではなく、会議への傍聴参加ということになるのでしょうか。オブザーバー参加ということの意味していると思うので、民生委員児童委員は、この第2層の各地区支えあい推進会議の委員メンバーであるのかどうかということをはっきりしていただきたい。

最初に申しあげたのは、その委員構成のいわゆる案、委員メンバーというのが市から示されているのかどうか、それから2点目は、民生委員児童委員が委員メンバーに含まれているのかどうか、この2点をお尋ねしたいなと思います。

[会長]

事務局から、回答をお願いします。

[事務局]

1点目、第2層メンバーの構成でございますが、市からこういった方々でお願いしますというサンプルというのはございません。

支えあい推進員が、各自治協議会、協議体の方に入らせていただきまして、その話し合いの中でメンバー等もお決めいただいているというところでございます。

2点目、民生委員児童委員につきましては、こちらも必ずしも入っていただくというような規定はございません。実際には入っていただいている状態もございますし、不在のところもあるというところが、今の状況でございます。

[会長]

ありがとうございました。

次に、現在の施策と評価についてですが、他にご意見はございませんでしょうか。

[委員①]

第2層のところで、地区ごとに設置していくということですね。平成28年にこの生活支援体制整備事業が始まって、もう6年、7年目に入っていると思います。その中で、できているところできてないところがあるわけですが、できていないところを、なぜ設置できなかったかというところを検証されて、進める側がきちんと第2層協議体の役割を理解されて、進められていたら多分できたと思っています。

各自治協議会、自治振興会に対してお話されるところが、地域毎、圏域毎に最初はバラバラであったため、なかなかうまくいかなかったのではないかと思います。これは丹波市に限らず、全国的に支えあい推進会議は設置しなさいよという方向にな

っていましたが、今頃になって、どの地域もなかなかうまく設置できてない。だから、改めて第2層の役割の進め方をしっかり進める側が認識してやらないと、今後はなかなか進んでいかないと認識を持っています。

先ほど言われた第1層を中心に、地域支えあい推進員を6名に増員したり、社会福祉協議会の支所長も一緒になってしっかり協議をやらないと。生活支援体制整備事業はあと1年半ぐらいで終わります。その中でしっかりできるかどうか。

それと、第1層の委員が選出されて、第2層の立ち上げに協力する、動いてないところをバックアップするのは良いと思いますが、果たしてその第1層の新しい委員が、第2層の状況を十分に把握されているのかと。第2層であった方であれば、例えば会長であれば第2層の柏原の委員長で、第1層も委員になられており、進め方を十分に熟知されていると思います。第1層もしっかりした考え方の共有をしてから、第2層へ入らないと、この地域ではこういうことを言ったとか、この地域ではこういう進め方やったというのでは、今後、いつまでも関わっていけないので、第2層としてしっかりとした考えを持って自分たちでやっていこうとしないと、いつまでも行政が関わっていかないといけない状況になりますので、もう少しきっちとその体制を整えて、同じ考え方を持たれてから活動される方がいいのではないかと思います。

[委員④]

資料③5ページですが、この「重点施策の評価指標」という資料と「地域福祉計画」の重点施策との整合性がなくて、これを仮に重点視点に関する評価指標として、例えば、計画書40ページの重点視点1、「地域を基盤とした多職種、多機関の連携強化」という視点に対しては、(2)の「地域特性を活かした介護・福祉分野における多職種・他機関の連携と協働」という一般施策の表となり、計画書44ページの重点視点2「地域づくり」に対しては、(1)の「自治協議会による支え合い推進体制の整備と活動の充実」が重点施策であって、重点視点のうち何個かだけが重点施策であって、全部は重点施策ではないのに、この表が重点施策の評価指標となっているため、分かりにくくなっています。44ページ重点視点2「地域づくり」は、この自治協議会が(1)で重点施策であって、資料③のその下の欄の民生委員児童委員というのは計画書では(5)のことであって、それはその計画書では一般の施策計画。

次のページの「人権擁護」は、重点視点3。それに対して計画書51ページ(2)の「権利擁護のニーズに対する支援体制の充実」は、重点施策に該当します。

資料③の次の「権利擁護支援センター設置までのスケジュール」も、(2)の重点施策中の一部です。計画書56ページ重点視点6の「福祉基盤づくり」の(1)で、「総合的かつ伴奏型相談支援体制の整備」が重点施策になっています。これらが重点視点なので、その中のこの3つの「人権擁護」と「総合支援体制」と「自治協議会」について、この重点施策と整合性をもって、計画したり、実施したり、調査したりということを中心に取り組んでいただくのが必要なのかなということに感じています。

[委員②]

第2層の支えあい推進会議の設立そのもののご指摘だったと思うのですが、いわゆる6名の推進員ということは、旧6町に1人ずつということですね。

その中に複数の自治協議会、あるいは自治振興会というのを持っている。この状態の中で、それぞれ折衝していただいていると思うのですが、そのできないところの原因を、その推進員はどのように把握しておられるのか、その情報というのは話をされているのでしょうか。

[会長]

事務局から回答をお願いします。

[事務局]

委員①のご質問からお答えいたします。

第2層の立ち上げでございますが、平成28年から立ち上げ、今のところ17で、なかなか進んでいないという状況でございます。

おっしゃっていただいたとおり、地域の意識が一番重要という所で、支えあい推進会議委員も自治協議会に入らせていただいて、このあたりの話もさせていただいておりますが、役員の構成が変わったりでなかなか進んでいないところでございます。

今現在ですと、本日お配りさせていただいております表にも書かせていただいておりますが、社会福祉協議会と市と支えあい推進員とで、交流会、意見交換を行っています。例えば、入り方をどうするのかを一緒に考えながら、協議を重ねております。今日いただきましたご意見をしっかり受け止めさせていただいて進めて参りたいと思います。

また、第2層につきましては、構成員7名で今お世話になっておりますが、実際にできている地域の委員もいらっしゃいますし、まだ立ち上がっていない地域の委員もいらっしゃいます。

まず、町域で基本的には1人、または2人出させていただいて、できているところのご意見ですとか、今はできていないところにお住まいの方のご意見ですとか、両方のお話もあると思いますので、そういった中で協議をしながら、第1層の中での役割を進めていきまして、支援につなげたいと考えております。

続きまして、委員②のご意見にお答えさせていただきます。

第2層で、今できているとこできていないところがあります。できていないところにつきましても、毎月推進員が報告をまとめて、市に提出をしていただいております。その中には、今その地域がどういった段階にいるかということも、全て評価をして市のまとめをあげていただいておりますので、毎月担当も確認をさせていただいて、それを基に一緒に相談をさせていただいているところです。

[委員①]

事務局から回答いただきましたが、自治振興会や自治協議会の組織に頼むと、必ず任期があって代わられます。

柏原でいうと、会長と一緒に支えあい推進会議をしているわけですが、ベースには自治協議会がありますが、それにこだわらないメンバー構成です。

自治協議会の中に民生委員が入っておられるところもあるかもしれませんが、柏原の場合は自治協議会に民生委員が入っておられません。

ベースは自治協議会でも、自治協議会以外のところに支えあい推進会議という組織を作っていますので、どちらかという前向きに意識のあるメンバーが揃っていますので、支えあい推進会議が立ち上げる前は、地域生活を考える勉強会というのをずっとやってきました。

そこで、関心のある人が支えあい推進会議ができた時に加わっていただいて、その方が活動されていますので、同じ思いのある人が長く携わっておられますので、理解はしてもらえています。

立ち上げる時に思ったことですが、自治協議会に頼んだら、なんでもやってもらえるであろうと思っていたら、現実、自分とこの事業がたくさんあり、プラス支えあい推進会議をやってくださいということ自体が人的にもしんどいところがあるので、もう少しそこら辺の考え方を自治協議会自体の代わりに、自治協議会とは関係ない自治協議会の外部組織みたいな形で立ち上げていってもらった方ほうが、柔軟に動けるではないかと思っています。

[委員③]

私が公募委員ででた背景には、市島町吉見地区の生活支援サービス推進会議から始まっています。

今、いろいろなお話を聞いていて、その第1層、第2層という部分の区別が実は長い間わからなくて、お話を聞く中で、どうも吉見地区においては、この生活支援サービス推進会議が、地域の支えあい推進会議と同等に扱われてやっているなというイメージを今持ちました。

というぐらい、第2層に対する定義がよくわからなくて、介護保険課による生活支援サービス推進会議がもう1個別にあるというイメージを持っていました。吉見地区といういわゆる自治協議会の部分においては、参加者を自治協議会が主体にやっているわけですが、参加者は各自治会副会長つまり福祉委員、それから民生委員児童委員、地域の介護保険サービス事業所、地域のボランティア組織、そういったところが集まって1つのサービス推進会議をやっています。

そこに今年度は、駐在所の警察官に来ていただいて、一緒に事例検討をしたり、東部地域包括支援センターから来ていただいて、地域にあった事例に対して、どんな支援をしたかというような内容を色々事例検討のような形で会議を進めています。

その時に使います名称は、地域生活支援サービス推進会議という形でやっているというのが、今の吉見地区の実情でございます。

この中で個人の生活課題の部分、または、どういうふうにお互いの持っている問題を地域課題に引き上げていくには、どんな認識を持ったらいいのだろうか、今、地域のメンバーといろいろ話しているので、そうした話した内容は、今度各自治会から民生委員児童委員などもそれぞれのまた地域に帰った時に、どう横の連携を取れるかということも含めて、今いろいろ進めていっています。

計画書の44ページにありますように、自治協議会をはじめとする地域づくりの実践活動を担うという組織づくりをしようとする、それぞれの地域特性に合わせた内容を地域アセスメントできる、第1層の支えあい推進会議にならないと、できないところがなんでできないのかとか、できているところはどこまで進んでいて、どういう継続性を持ってやろうとしているのかというあたりのアセスメントができないのではないのかなと聞いていて思いました。

そういう形から考えると、今回改選において新たに選ばれた方々が、そういった基本的な知識や、それから各地域特性を地域アセスメントできるような会議の形に市は持っていこうとしているのか、数だけの追いかけではなくて、質問部分でももう少し検討できるような会議内容、またはその人員育成をしようとしているのか、というところを少しお聞きしたいなと思います。

[会長]

事務局から回答をお願いします。

[事務局]

委員①からいただきましたご意見、自治協議会にだけお願いをすると、なかなか自治協議会もお忙しいということで、進まないと思っているところはございます。

第1層の会議の中でも意見がでまして、自治協議会には限らない、自治協議会だけにさせていただくというところは決めていないとしています。

柏原のような団体であるとか、地域課題を考えていただけるということであれば、母体は自治協議会に限らないというところは、考えているところです。そのあたりを推進員とも共有させていただいて、できる形で会議を持ていただくというところを進めていきたいと考えております。

委員③からいただきましたご意見ご質問でございしますが、第1層の委員の状況でございします。

前は各団体から選出いただいておりましたが、今回は、各地域の中で、例えば、支えあい推進会議を実際に運営をされている方、自治振興会の方、民生委員児童委員、また別でご自身で団体を立ち上げていらっしゃる方、そういった形で、多様な方を選出させていただいているところがございます。

こういった中で、皆様のバックで持っておられるそういう活動も含めまして、第2層の中で多様な意見を出していただいて、第2層への支援という形につなげたいと考えて、今回の人選を行っております。

[会長]

このテーマについての意見、ご意見、他にはございませんでしょうか。

[委員②]

自治協議会、私も5年間ほど携わらせていただきましたけれども、自治協議会自身が人員不足で困っている現状だと思います。すべての自治協議会がそうであるとは思いませんが、多くの自治会があるいは組織として活動というものを募集して、あるいは自治会から拠出していただいて構成できても、実際の活動に繋がっているのか、活動していただけるかどうかというのは、非常に疑問のところですよ。

その方々が、その支え合い推進会議のメンバーになるということは、なかなか自治協議会としては選出しにくい状況というのが、各自治協議会にあるのではないのでしょうか。自分の自治協議会活動がうまくいっていないのに、自治協議会に携わっていただいている方々の時間を割くという形はなかなかできない。自治協議会が基盤となって選出すべきだとしても、できないことを含めてできたとしても、それは活動が続いていかないということで、新たな第2層の推進会議というものの構成を示す必要があるのではないかなと思います。

例えば、この成果の中にありますけれども、いわゆる自治会の福祉委員の方、新しい目線だと思います。自治会における福祉委員の役割は、多くの自治会がそうだと思いますが、いわゆる赤十字募金、赤い羽根募金、集金人の役割を担っているのが多くの自治会ではないかと。まるで、集金人の下請けみたいなことをしているのが実質の活動です。

それが、いわゆる福祉の推進という形の支え合いという新たな使命を、自治会の福祉の方に担っていただく、全員の方が協力的かどうかこれはわかりませんが、新たな使命を福祉委員に明確に付与していくというのでしょうか、この支え合い推進会議の委員構成にこういう方々になっていただきたいみたいなプランがどこかでできないのかなと簡単に言えばそういうものです。

それを自治協議会の方から作り上げていただく、あるいは、他の団体から作り上げていただくというのは、ちょっと強引なように思いますので、まず、市から夢を描けるような、そういうプランというものを提示していただけたらありがたいなと思います。

[委員④]

まずはじめその地域をアセスメントするのが必要ではないかと。先ほどの意見もありましたが、自治協議会を基盤にしてうまくいっているところと、反対に自治協議会ではもう余力なくできない地域があると思います。それ以上に、人口の年齢構成も限界集落に近く、もう無理だということは、自治協議会が立ち上げたり、自治協議会以外が立ち上げたりすることはとても難しい部分があると思うので、うまくいっているところの人口構成はどういう人口構成で、どういう働きがあって今できていて、またどういう働きを加味したらできたのかとか、自治協議会を基盤にしたのか別組織なのか、その辺の分類とかアセスメントをして、うまくいってないところ

ころはこういうパターンだから、いや、無理だから側面から支援しないと無理だよねとか、誰かを派遣しないと無理だよねとか、一概に自治協議会が基盤で何かプラスしたらできるとか、自治協議会と別にした方がいいとか一概に言えない地域によっていろいろではないかなということをお話を聞いてすごく思うんですが、いかがでしょうか。

[事務局]

委員②のご質問ですが、市が考えている支えあい推進会議、委員構成等の理想等を提示できたらどうだろうというご意見だと思いますが、支え合い推進員等が地域に入って、地域の方からそういう要望があれば、他市の事例ですとか、市内でもできているところとの違い等は提示をさせていただいております。

あくまで住民主体、住民の方から出てくる活動を目指すところとしておりますので、できる限り地域の意見でできたメンバー構成が理想ではないかと思っております。

また、福祉委員の登用というところがありましたが、こちらもできていない地域のところで当初自治協議会に働きかけて、進まない場合、今度は福祉委員はどうだろうというようないろんな考え方であたっているところです。いろんなアプローチの仕方で行っているところです。

また、委員④の方は、委員③と同じく、アセスメントできる方でないとか会議の設置が難しいのではないかというお話だったかと思いますが、確かに今の第1層のメンバーは当初人間力というのですか、これまで地域活動をされてきた実績等をみて、そういったところに頼ったところもあったと思います。

また、そのアセスメント力といいますか、この地域支えあい推進会議のあり方と支えあい推進員と認識を一緒にしながら、進めていきたいと思っています。

[会長]

ありがとうございました。

協議ができる時間が迫っていますけれども、この議題についての意見のまとめ、または、この会議から提案なりはありますでしょうか。まとめとしてなんですけれども。どなたかございませんか。

[委員③]

今の場合は、第1層のところが設置に関わって、未設置の第2層の設置数を増やすかというテーマだったと思います。

でも、今実際に設置して活動しているところも、実はいろんな問題を抱えつつやっているというふうな認識を1つしてほしいなと思います。

その1つに先ほどからでている継続して地域活動をやっていくには、どんな組織づくりをしたらいいかという話ですが、吉見地区でも、結局自治会副会長だった人は2年ごとに変わっていきます。民生委員児童委員も基本的には3年ごとにかわっていきます。事業所の方は、そこを運営している以上は継続して委員になるわけで

すが、ボランティアの部分も一定の年齢や一定の時期が来たら辞めていかれるというところで、今非常に移行の時期になってきています。

吉見地区でも、そのことで2年経ったら辞めるのに、その間だけやれというのは、役になったらこれがついてきたということで、最初は重いということが3年、4年目ぐらいにでてきました。そうしたら、その役がある間とはとにかく頑張ってみるわということで始まったのですが、終わりの時には、その地域でいろいろ話してきた内容が、役が終わったからといって、何もしないというわけにはいかないなという声が出てきたりしてきています。

2ヶ月に1回会議を開いているわけですが、その前に打合せ会議を推進員と生活コーディネーターである私と自治協議会の方と4者ぐらいて、その会議をどんなふうに進めていくかという打合せ会議を2か月に1回やって、交互に進めてきたというのがあります。そういう中で、この推進会議という部分は、実践会議、自分たちが役をしたら何かしないといけないのかという形ではなくて、どんなふうに地域の課題があって、自分たちはそれぞれが持っている役割からどんなことができるのかをみんなで考える会議にしようと言った時に、やっぱり方向性が見えてきたみたいです。

今2年終わった後にでてきた1つの言葉が、今までは知っている人やから、困っているところに手を差し伸べるのは当たり前や思っていたけれども、知らない人でも困っていたら、地域住民やから手を差し延べな、助けなあかんねやという認識にちょっとずつ変わってきています。

でも、それには回数を重ねることではなくて、中身をどのようにしていったら地域の人たちがそこに興味を持って、互助というところに入っていけるのかを、先ほどいったメンバーが、その会ごとに真剣に考えてきた結果だろうと思います。実際に市島では2、3年前から孤独死がありました。そこに対面した住民の人たちはいろんな後悔と、そのことを発見したら警察が来るわけで、いろんな人が来るという中で大事になるという点を肌で受け止めたということと、もう1つは数年前に水害がありました。その時にどんなふうに避難したり、どんなふうにそのことを知らせ合ったりで、地域の人防災というより、減災をするためには、どんな協力があればいいかというのを、生活の中で実際に突き詰められたからこそ、このような考え方がでてきたのだらうなと思っています。

そういう意味合いも含めて、設置だけでなく、継続性あるものにするためには、どんな組織づくりをしていったらいいのかを、第1層のところでも十分に話し合える会議にしていだけたら嬉しいなと思います。

[会長]

ありがとうございました。

事務局から回答をお願いします。

[事務局]

おっしゃっていただいたとおり、回数ではなく中身というところを一番目指しておりますので、今いただきましたご意見等も踏まえまして、第1層が第2層の支援をできるような形になるように、これから支援策等について協議していきたいと思います。

[会長]

支えあい推進会議というのは、新たな組織、新たなプロセスづくりを始めた組織ですけれども、住民参加ということも社会福祉を推進する基礎組織ということになりますので、この辺のところ重点において、お話をしていただいたことです。

介護保険課も、こういったいろんな意見がありますので、参考にしていきたいながら、また意見を聞いていただきながら進めていきたいなと思います。

よろしくお願いいたします。

このテーマについては、これで終えたいと思いますが。

[委員⑤]

支えあい推進会議のことなんが、立ち上げることが目的になってしまって、それが目標になってしまわないで、地域に困っている人がいるから、地域みんなで助けようよっていう気運を地域で育てたらいいなというのを感じました。

これには市民の人たちがそこに興味を持ってもらうための工夫が必要で、それをこれまでされている柏原とかは事前に研修会をされたり、今も防災のゲームをされたりという事例もありますし、市民も困っている人が見えたら動ける人って結構いるなと私は感じていて、ちょっと時間が長くなってごめんなさい。例えば、私が前住んでいた地域で、民家が全焼してしまう火事がありました。そこに、私の子どもと同級生の高校生、中学生がおられたんですが、保護者にあっという間に連絡が回って、制服とか道具とか焼けてしまって、水で濡れてしまって使えなくなったため、使えるものを寄付してくれる人いないかということが一晩にバアーって連絡が回って、次の日に子どもと相談して、これあるけどって言ったけど、もう遅かったみたいなのがあったんです。

やはり動ける人、それが地域福祉やと思うんです。その人たちは地域福祉に関わったとは思っていないんですが、そういうことができる市民はいると思うので、そういう人たちに気づいてもらえるようなことも一緒に支えあい推進会議を作っていくのと同時に、そういうこともしていけないといけないなと感じました。

[会長]

ありがとうございます。

今日の会議ですが、他にもいろんな議題も資料の中からはあったかな、事業評価に必要な意見とかもあったかなと思います。まだご発言をされてない方もいらっしゃいますので、時間もありませんので、1分程度で、次回の会議に向けてということ、また、今思っておられること、一つずつお話をいただけたらと思います。

[委員⑥]

非常にあの貴重な色々聞かせていただいて勉強になりました。

推進の評価について、全部を評価していくのか、重点施策だけを重点的に評価していくのかというところ、今後のあの方向っていうか、この辺聞きたいなと思っています。

[事務局]

基本的には重点施策を中心に、評価は行っていく形となります。ただ、そうすることで他の取り組みはどうかということにもなるため、こんな細かいような文字の表にはなってしまいますが、このような取り組みをして、このような成果があって、こういう課題になり、今後はこうしていきたいというところは、全ての項目について報告させていただきたいと考えておりますが、メインとしては、重点施策のところを中心に評価してまいりたいと考えております。

委員②と委員④から照会いただきました評価の項目については、確かに少しずれているというか、大項目と中項目、小項目がばらけているというようなところもありますので、そこについては、次回までに整理をいたしますので、ご了承いただきたいと思います。

[委員⑦]

私は、障がいをお持ちの方の支援に携わらせていただいております。

その中で、地域の中で生活されるといったところで、地域の方との繋がりであるとか、支え、協力っていうものの重要性っていうのは、痛感しているところです。

ただ、支援者の私たちもそうなんですが、なかなか地域の方と顔を合わせる機会であるとか、繋がっていくっていうところに十分にできていないなあといったところ、こういった機会のお話を聞かせていただく中で感じております。

こういった機会でお顔は私自身もわかってきていますので、今後いろんなところで繋がっていったいける機会を持たせていただけたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

[委員⑧]

認定こども園にありますので、子どもへの中にも子どもはもちろんですけど、保護者の方においても、各ご家庭においても、色々な様々な問題や、お持ちの方もあります。そういったことも今回こうやって聞かしていただいて、また一層持っていかなければと思いますし、また教えていただかないこともあるなと意見を聞かせていただいていた、ありがとうございました。

[委員⑨]

私が働いている事業所には、18歳以上の利用者が来てくださっていますが、今日の支えあい推進会議のメンバーになったらいいなって思うようなキャストさんがおられます。

今日も稲刈りをしておりますけれども、小学校5年生の子どもたちに手取り足取り、どれだけ親切に優しく教えるか、イラっとするようなことも言われます。だけど、イラっとしません。それは自分が今まで困ってきて、どんな風に教えてもらったかよくわかったか、どんなふうに教えてもったら怖かったか、いろんな傷つきや学びがあったからこそ、彼らにできることが山ほどあるなって感じます。

春の1年生の帰りの準備、さようならの前の会のランドセルに荷物を詰める作業、道がまだわからないので前後について送る、帰りの見守り、そのボランティアも志進館行かせていただくんですが、それはそれは優しいです。興味を持てていろんなこと、なんで太ととるん？とか、仕事は？とか言われます。お父さん仕事行ってるけど何してるん？とかバンバン言われるんですが、彼ら独特の優しいやりとりで、今日はみんなと一緒にいるのが仕事やでと言ったりしています。それも彼らの才能かなと思いますので、地域の中でこういう会議に出るといことがどうかはわかりませんが、色々な役目が同じ方に、どこの会に行っても同じ人に出会うなっていうような会議でなくなったらいいなと。その人やからできるという点が出せるんではないかなと思ったりしています。

[委員⑩]

我々社協の中で、行政から委託を受けて支え合い推進員、また、支所長を中心になって動いておるわけですけども、先ほどからの意見の中にもありましたように、やはり地域によって温度差があるように聞いております。その辺をどう進めていったらいいのかということで、推進会議で行政の指導も受けながら職員もやっているわけですが、立ち上げることばかりを焦ってもいかなのかなという思いは持っております。

生ぬるいなあと言われるかも知れませんが、やはり地域で、それぞれの意見を出し合った中で、立ち上げていこうという意欲を地域から持ってもらえるような、そういう動きができたらなあとは思っておりますけども、今日聞かせていただいた意見を十分また内部で相談をさせていただきながら、行政の指導も仰ぎながら進めていきたいなという思いを持ったところでございます。

[委員⑪]

今聞かせていただいた、非常に良い制度、組織というのですか、そういうのができてうまく運営されていくんじゃないかなと。

私はここ2年ほど前から、人がないということに出会いました。というのは、役員をしてもらえない人がない。これをなんとかとせんことには、地域の豊かさというのはなくなるのではないかなということは思っております。

結局のところがここまで来てしまってもう解散するしかないというところへ行きました。それから以後なんとか立ち上げるということもそれぞれの頭の中にはあるんでしょうけども、自分はそこまでしんどい思いをしてやれるわけではない、こういう体制の方が先へいく社会になってしまったというのが現実やというふうは

思います。その辺からまず注意して、進めていかなければ、組織づくりというのはなかなか難しいだろうなと思った次第であります。

[委員⑫]

今、老人クラブは、青垣と市島がどういう事情があったのか、どういう経緯があったのか詳しくはわかりませんが、参加してないという状況で、春日、氷上、山南、柏原の4つがですね、これもなかなか話を聞いて活動を求めるけれども難しいというか、一朝一夕に行く課題ではないのですが、なんとか頑張って結集をということを思っているところです。

今日初めて参加させてもらって思ったことが、当初に第1層第2層の話がありましたが、なんか中2階のような話だなあと思ったんですが、だんだんできるような気がします。おそらくこれからの課題として、気が付いた点では、第3期計画ができる当時はそんなに問題ではなかったかと思うのですが、今、男女共同参画を含めてジェンダーの平等やLGBT、パートナーシップ制度なんかも含めて、色々問題になってきている状況にありますから、この福祉計画の中で、それを取り扱うのかどうかというのはいろいろ議論もあるかと思うんですが、第4期の計画では、そういう問題もでてくるのかなあということを少し思いながら、今日この会に参加してもらったところです。

[委員⑬]

今日はそれぞれのお立場の皆さん方から、ご意見たくさんいただきまして、ありがとうございました。私にとりましても、たくさんの視点をいただいたなということで、貴重なお話を聞かせていただきまして、ありがとうございました。

また今後この会で進んでいくように、お世話になれたらというふうに思っていますので、引き続きよろしくお願いします。

[委員⑭]

今日はいろいろとお話を聞かしていただく中で思っていることとしましては、民生委員が任期になっていまして、自治会に今年決めていただくようお願いをして決めていただきました。その中で感じたことは、民生委員ですら成り手がなく、地域から選出していく、自治会から選出していただく民生委員の成り手がなくて、決まって民生委員になっても、地域の中でこの方が民生委員で、また協力委員でという報告すらない、役員だけで決まっただけの民生委員、私はどうなんだろうという民生委員もいらっしゃいます。

地域の中で民生委員という立場で、また立場というよりも、そこの住民として今日お話があった諸々のことについて、お話をしたりとか、また、地域に寄り添うとかいうのが目的であり、また届かないところに届くという民生委員の活動すらもどういったものかなと。民生委員としてやる力があって頑張りたいという民生委員もいらっしゃる中で、そういう活動の場所が少なくなっている状態も見えております。

また、地域によって、やはり高齢化が進んでおります。非常に高齢化し、これから30年先ぐらいことなのかなというぐらいの、進んでいるというような状態も聞いたりしますので、そういう方々が多い中で、民生委員としての立場で活動をしていく中で、民生委員が地域の方にこの方が民生委員でお世話になってるとか、お世話させていただいたとかということが知られてない。やりにくいという反面も出てくるということはいかがなものかなと。今年、新任の方がこの12月から決まります。かなりの人数で交代される地域もあります。その中で、民生委員として研修会はたくさんやるわけですが、そういったものが自治会との繋がりの中に繋がっていくことをできるかな、というのは今から民生委員の活動を支える上においても重要なことになってきょうかなと思っておりますし、さらに研修などが必要かなと思ってきております。

民生委員は立場上と言いますか、ご存じのように、守秘義務もあるわけですが、守秘義務を除いてやはりいざという場合には、民生委員の活動というのは大事かなと思っておりますので、いろいろとご協力いただいたり、教えていただくことがあれば、教えていただくということを、お願いをいたします。

今後、新任の民生委員が、また今やっておられる民生委員が1期で終わらずに、2期3期と続けていっていただく、また自治会の方で提出いただくわけですが、自治会の選出する方も、民生委員の役割というものを理解していただいて、選出していただくようお願いしたいなと思っております。

[委員⑮]

今日は、皆さんの貴重な意見を聞かせていただいて、大変勉強になりました。改めて、この地域福祉の大事さっていうのを痛感しました。

[委員⑯]

県の障がい福祉の計画でも、地域の支え合いということが、キーワードにはなっていますが、改めてそれを現場で実現することの難しさというのを感じたしだいです。

[会長]

それでは、これで協議は終了とさせていただきます。
次の予定をお願いします。

6 その他

(1) 次回の日程

[事務局]

それでは次第に戻りまして、その他の項目でお話しさせていただきます。

その前に1点、今年の8月25日に、丹波市の市政広聴会、いわゆる市民の方と市長、部長級の職員がお話する機会が、コロナ禍でありますのでオンラインという形にはなりましたが、その中で地域福祉計画の評価というところが上がっております。

委員の皆さんからもご指摘を受けているところもございますが、市民の方から地域福祉計画の進捗管理をどのようにしているのか、見せてもらったが、自己評価いわゆる市が評価をして、今どういう形の成果にしているのかが、非常に甘いのではないかなというようにご指摘を受けております。

今回そのお話もさせていただいた上で、皆様にたくさんご意見をいただくことができましたので、どちらかというと行政の職員が凝り固まってるというか、なかなか幅が広がってこないというところがありますので、皆さんとお話する中で、いろんなご意見を聞くことができ、それをいろんな事業、施策に反映できるのかなと、今日、本当にそういう意味で思いました。

地域福祉計画、自己評価が甘いのではないかなという話につきましても、今後は皆さんのご意見いただく中で、この方向しかないと思えるのではなく、いろんな考え方があるということも、意識をして進めていきたいなということをまずお話をさせていただきまして、次回の日程にうつります。この推進協議会については、年2回の実施という形をとっています。年2回の実施だけではなかなかその評価や分析が難しいのではないかなというの、私自身、今日感じたところでございます。次回は2月という形で、予定をしています。会長、副会長とも連絡を取り合いながら、日にちについては、できるだけ早い時期に委員の皆さんにお示しをしたいと考えておりますが、またその際でも結構ですし、別の機会でも結構ですので、この計画の評価にあたって、確かに年2回ではなかなか難しいのではないかなというようにご意見もありましたら、次回の時にでもいただければ、なんとかそこを次年度に向けて、できればなというところも考えております。今の段階では、次回の日程は2月ということで、またご案内をさせていただきます。

[会長]

他に連絡事項はないようですので、最後のまとめも含めて、副会長からお言葉をお願いします。

[副会長]

初めての方もいらっしゃるということで、改めてこの地域福祉計画というのは何かというところから、また意識が共有できたのかなと思います。

その中で支え合い推進会議というこの丹波市地域福祉計画においての1つの主軸だったでしょうし、非常にポイントついた議論になったのかなと思います。

感想ですので参考程度に。

1点目は、丹波市の資料は非常にこう自虐的というか謙遜だなと。先ほど評価が甘いんじゃないかっていうふうに言われましたけど、他の計画はともかくですね、

こういう地域をどうやっていくかっていうことで言えば、正しい答えなんてないんですよ。

アプローチの仕方も、どなたか言っておられましたが、地域によってそれぞれのやり方であってもいいし、そうなってくると、どうしても行政の資料はここに課題があるんですということをどれだけ書くかということになってくると思います。これに関しては課題なんてどうでもいいという言い方はよくないですが、こんな活動でこんな強みがあるんで、それをバンバンだしていったって、どんな活動しても課題のない活動なんてないんで、そこに目を奪われてしまって、どう解消していこうかってやっているのと、畏縮してしまうだけなんで、そんななんでもでもいいから強みの部分を活かそうよというような形でもいいかなと。視点を他の部分に少し変えるというのもいいかなとは思いますが。

あと1つは、地域住民頼みっていうところもあると思うんですが、私は丹波市の強みって高齢者にしても障がい者にしても、社会福祉法人をはじめ、社会資源ってめっちゃめっちゃあるんです。

これは、神戸とか都市部がサボっていたつけ。その当時にも丹波とか、丹波篠山に施設をバンバン建てられているということが、今逆バネになって、こんな永久エンジンがある地域ってなかなかないんで、そこの方々も地域住民なんで、そういうところも使って、強みを活かしていくと、また違ったところが見えてくるだろうなと。

一方で、どうしてもこういう支え合いというと1番大きい課題として、高齢者が中心になりがちで、そこをイメージしがちなんですけど、支えあいの基盤となる場合に、その60歳、65歳以上の方の生活とそれ以前の方というのは視点が違うんで、その若い方が飛び込んでいこうとすると、やっぱりその就労と支え合いのバランスっていう部分を、一括りでは語れないかなというところがあったりします。

あるいは、その支え合いの中でも、やはり高齢者が中心になりがちですけど、それは別にここでやるとかいう必要はなく、むしろ個別の介護保険事業計画などの進捗管理であって、次回以降、例えば、子ども食堂や認定こども園などに来られている若いお母さん方がその地域の中で発言できているんだろうとか、そういったところを次回以降、委員を通じて、またお話をお聞きできればなど。

それと、委員②からLGBTについてご発言があるとは思わなかったんですが、こういう支え合いの中に、子どもとか、あるいはシングルマザーとか、そのマイノリティの方が、取り残されずに入っているんだろうかっていうところは、また次回以降の検証をされていいかなと。

最後これだけは丹波市へのお願いですが、地域地域といってる中に、公的支援の責任転嫁だけはしないように、しっかりとそこは支えてください。これまでも地域に投げてしまうと、地域はそこは担えません、担うべきもんじゃないですから、それがまた結局家族に返ってきてしまうんです。家の中へ入れないというか、入るべきでないという部分があると、家族へいってしまう。そうすると、古い昔のような家族なんかみたいな、変なものが復活しかねないっていうところがあるんで、公

的支援はここまではしっかりやるっていうところは、実施していただければというふう思っています。

7 閉会

[会長]

今日はしっかりした議論ができたと思います。

次回またいろんな意見を出していただきますよう、よろしくお願いいたします。

今日は、本当にありがとうございました。お気をつけて帰ってください。